

Bチャレ 新たなつながり部門 実績報告書

団体名	ぶんぶく屋上養蜂部	作成日	2月 1 日
事業名	“養蜂でまちづくり” ぶんぶく屋上養蜂部		
協働団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぶんぶく屋上養蜂部 (自団体) ・ SFB (ストップザフレイル文京)、高齢福祉課 ・ 株式会社松下産業 ・ サンクチュアリ出版 ・ 町会・自治会・NPO法人エナジー本舗 ・ 区内社会福祉法人 ・ 民間企業 ・ 区外養蜂専門家 		
自団体及び協働団体の役割分担	<p>【ぶんぶく屋上養蜂部 (自団体)】 総務・会計事業計画の立案、各種申請業務、人員配置調整、事業計画立案&進捗管理、広報、イベント企画協力</p> <p>【SFB (ストップザフレイル文京)、高齢福祉課】 活動班参画、ボランティア募集</p> <p>【松下産業】 巣箱設置場所の提供、巣箱環境整備への協力依頼</p> <p>【サンクチュアリ出版】 広報・イベントへの協力</p> <p>【町会・自治会】 認知・広報協力</p> <p>【NPO法人エナジー本舗】 焼き菓子制作に関わるコラボ</p> <p>【社会福祉法人・民間企業】 商品企画相談予定、企業協賛</p> <p>【区外養蜂専門家】 技術・安全指導、地域連携相談</p> <p>【個人ボランティア・事業賛同者】 養蜂作業への参加・事業活動賛同</p>		

提案背景・目的	<p>文京区では高齢者人口は、年々増加傾向にあり、2020年には43,662人、2030年には48,536人と予測されている。(文京区人口推計、文京区高齢者人口推計)国の調査(高齢者白書2020年)では、65歳以上の一人暮らしの方は男女ともに増加傾向にあり、中でも高齢男性の高齢単独世帯全体の比率は2015年32.5%から2040年39.7%に増加すると推測されている。(令和2年厚生労働省白書)65歳以上の人の近所の人とのつきあいの程度を世帯タイプ別に見ると、男性単身世帯においては、「あいさつをする程度」が半数以上であり、「つきあいはほとんどない」と回答する割合も他より高く、社会参加の機会が少なく、我々は、それらがフレイルの一因とされている課題を感じてきた。</p> <p>このような地域の状況を踏まえて、今回のPJでは、男性高齢者が参加したくなる活動の切り口として、「事業型」且つ「試行錯誤ができる」という特徴を持つ活動で男性高齢者も参加しやすい活動づくりを追求する。そして、その活動をすすめるために、子どもから高齢者までが参加できる機会を設け、地域ぐるみで事業に取り組み、地域コミュニケーションを強める中で地域づくり、フレイル予防を前進させます。その結果として、男性高齢者の地域コミュニティへの参加の一助になればと考えている。</p>
事業内容	<p>①5月20日より見学会開催。9月末までに、内見見学会8回開催、計31名参加。採蜜体験会6月3日より開催。8月末までに4回開催。17名参加。参加費収益58,000円。SNS情報からの参加が多い。</p> <p>②新たなコアメンバー3名増えて、9名に。新たに斎藤さん、朝山さん、加藤さんが参加 計9名になりました。いずれもSNSへの情報発信から賛助会員、内見作業への参加からコアメンバーになっていただいた。未だ賛助会員の中にも男性高齢者のコアメンバー候補が数名いらっしゃる。</p> <p>③賛助会員規定と募集チラシ作成し内見見学会参加者に呼びかけた。結果、賛助会員(BBS) 15名。賛助会費43口 43,000円。(コアメンバー30口、30,000円含む)、寄付金10,000円。賛助企業募集は働きかけができず未だゼロ。</p> <p>④収益事業として採取した蜂蜜を賛助会員、協同団体構成員、協同団体行事にて販売。採取した蜂蜜量は全部で29.5kg。前年より多かったが、春先の天候不順の影響もあり予定した量より少なかった。蜂蜜は瓶詰めにし、小瓶108、中瓶139、大瓶19を販売。収益金として257,400円を計上。配布・販売に伴う、担当管理者を決め在庫管理ができるようにした。</p>

	<p>採取した蜂蜜を使用したマドレーヌの制作をエナジーハウスさんに依頼。子ども食堂などで配布した。</p> <p>⑤協賛企業の松下産業のファミリーデーに企画提案。 内見作業見学、オリエンテーション、採蜜作業、蜜蝋キャンドル作成等を計画7/30予定で準備していたが、コロナ感染拡大で次年度に延期。8世帯24名参加予定だった。</p> <p>⑥文京福祉センターまつりに出展。ぶんぶくの活動紹介を行った。子どもから、高齢者の方までの参加があり、蜂蜜87個販売。賛助会員が4名増えた。</p>
協働団体 or 利用者の声	<p>・SFBの新規フレイルサポーターからは「活動に興味があるので一度見学会に参加したい」との声があり、8名が見学会に参加。蜂蜜も20個ほど普及できた。・協賛企業の松下産業さんは担当者の変更があったが、「いつも養蜂場所の階を通る度に蜂さんの状況が気になるようになった」などの声が出されている。・見学会参加者からは、「参加してみて、作業が楽しく今後も継続して参加したいと思った」「会の目的なども説明を聞いて理解が深まった。都会のだ真ん中で養蜂ができるなんてすごい!」「養蜂を通じて笑顔とふれあいが溢れた活動でもっと広めたいと感じました」等活動参加につながる感想が寄せられています。</p>
協働による効果	<p>・SFB定例会でぶんぶくコアメンバーから活動報告したり、SFBニュースにも活動を掲載して繋がりを図っている。SFBのフレイルチェック参加者にもチラシを配布している。結果、SFB参加者から見学会への参加も8名あった。・協賛企業である松下産業さんとの関係では、ファミリーデー企画作業を通じ、窓口担当者以外の課の方や、社員のみなさんとの協働が進み、次年度の取り組みにつながった。</p> <p>「養蜂を通じてまちづくり」との会のコンセプトが、ぶんぶく養蜂部と地域の団体、企業の中に一定の認知度を得ることができた。</p> <p>担当課からは、「区のフレイル予防事業との連携をより進めるとともに、今後の広報展開などを通じて、特に男性高齢者層の地域コミュニティへの参加のいっそうの進展を期待したい」との声があった。</p>

<p>成果目標の達成度</p>	<p>・養蜂作業での切り口での認知度はこの一年間の取り組みではアップした。見学会参加者数は目標達成。参加費収益も目標達成した。一方、賛助者を増やす取り組みでは目標比60%到達となり、取り組み全体では目標到達比80%となる。「養蜂を通じてまちづくり」「高齢者の社会参加」を目指し、コアメンバーを増やす目標の到達率は40%。10名目標で3名で留まった。賛助者の中からコアメンバーとなつていただく点でのつながりも強くなっている。・松下産業さんとの協働の取り組みでは、松下産業担当者の交代もあり、屋上緑化などの事業に取り組めなかった。ぶんぶく側からの積極的働きかけと定期的な懇談が必要だった。この点での目標到達率は50%。・収益事業としての蜂蜜の販売、蜂蜜を使用したマドレーヌづくりと販売を行い、事業収益としては目標を達成することができた。しかし、途中で1群がダニの影響で2年続けて死滅するという事態となり、次年度の作業に経費的な負担がかかることになった。この点を考慮し目標到達率は75%。・次年度に向けての準備作業として法人格取得の学習会を3回に分けて実施するとともに、新しい養蜂場所を増やす取り組みとして、新規養蜂場所の対象施設の担当者の養蜂見学の受け入れ、施設管理者との懇談会を開催し、一定の前進があったが、現時点では次年度当初からの新規場所での養蜂開始は困難な状況。この点での到達度は50%。</p>
<p>今後の活動予定</p>	<p>～来年度は持続可能な組織づくりの初年度と位置づける～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業収支で黒字とし、事業継続が可能な組織をめざす 繰越金10万円 ・次年度もう一箇所新たな場所での養蜂実施の準備をすすめる 12月末 ・SFBの活動と連携し、ぶんぶく屋上養蜂部活動を高齢者の中に広げる ・ぶんぶく養蜂部の養蜂作業体験、見学者を増やし会の賛助者を増やす ・地域団体、文京区、社協、企業と連携しぶんぶくの活動を広げる ・事業組織として持続可能な組織づくりのための法人格取得を引き続きめざす ・会の広報活動を外部向け情報発信と内部向け情報共有を体制的に強化

別紙1：事業スケジュール(報告版)

別紙2：収支報告書

別紙3：関係者マップ

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

【提出先】

E-mail : fumikomu@bunsyakyō.or.jp 問合せ : 03-3812-3044 (担当 : 田邊)

別紙1：事業スケジュール(報告版)

団体名：ぶんぶく屋上養蜂部

実施内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局会議、スタッフ会議	●	—									→	●
会総会	●											
会まよめの会				●				●				●
養蜂作業 内見作業	3/M	4/M	4/M	5/M	4/M	2/M	1/M	4/M	1/M	1/M	1/M	4/M
見学会・採蜜作業		4/M	4/M	5/M	4/M	2/M	1/M	4/M	1/M	1/M	1/M	2/M
SNS情報発信	2/M	4/M	4/M	4/M	4/M	2/M	2/M	1/M	1/M	1/M	1/M	2/M
協賛者増				8名	1名	3名		3名				
コアメンバー増			2名	1名								
他団体・区企画参加								●江戸川橋				●介護予防展
賛同者募集 チラシ要項づくり 募集		●										→
他団体研修受け入れ					●順天大学 院				●都社協 コーディ			
法人格検討学習								●		→		
蜂蜜販売普及			24瓶	66瓶	63瓶	11瓶	73瓶		29瓶			
フミコム/関係課との会議	●					●					●	

* 列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

別紙2：収支報告書

団体名：ぶんぶく屋上養蜂部

収入 955,965 円

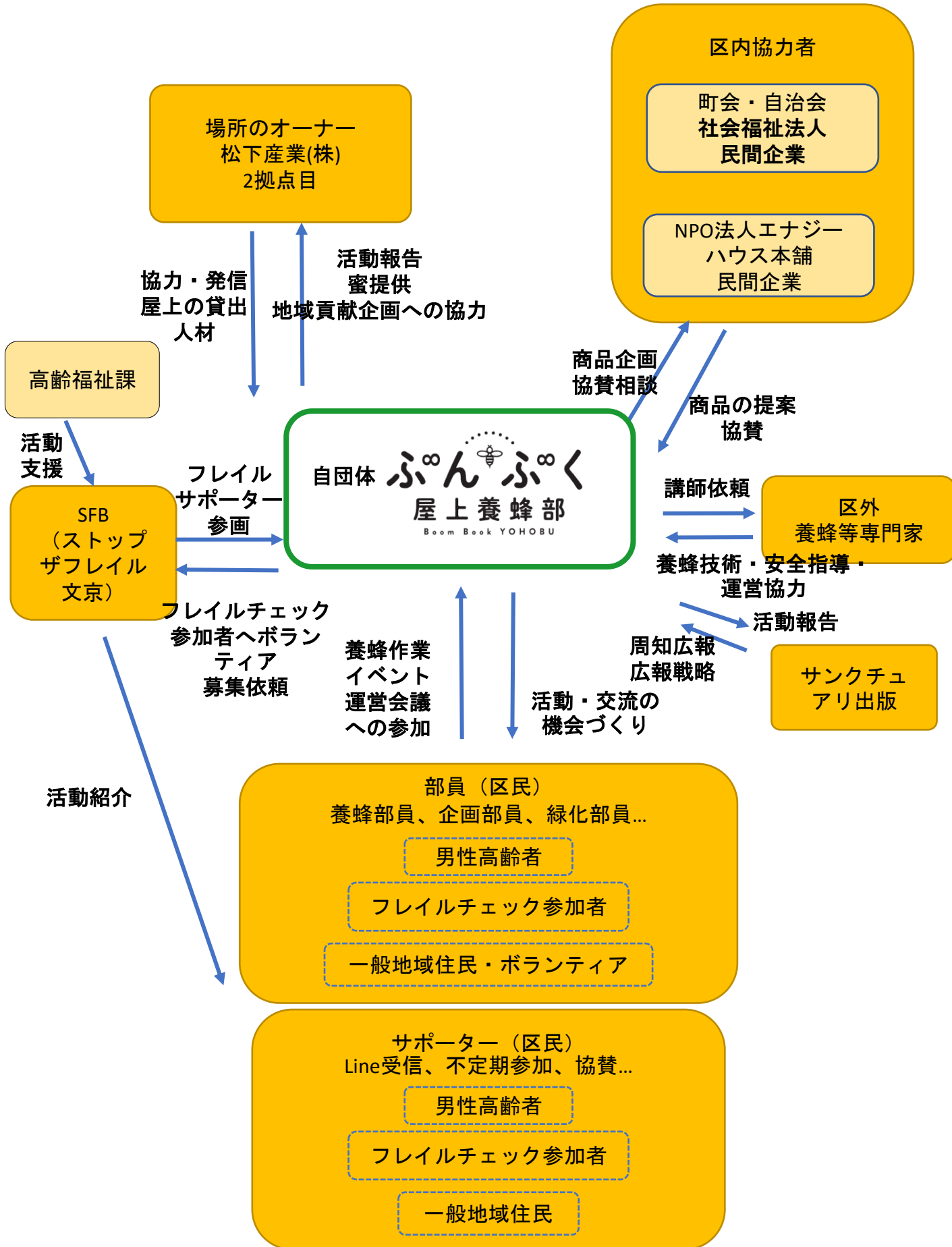
費目	予算額	積算根拠
「Bチャレ」助成金	495,000 円	助成金補助決定額
売上金	380,965 円	蜂蜜普及代金291,100円、見学体験62,000円、蜜蝋蜜菓子11,200円、物販16,665円
協賛金その他	80,000 円	賛助 44,000円 寄付 10,000円 講師料 26,000円

支出 955,965 円

費目	予算額	積算根拠
蜜蝋物品購入費	0 円	蜜蝋器具用品 蜜蝋作業用品
養蜂物品購入費	252,155 円	養蜂器具用品123,244円、養蜂作業用品28,911円、種蜂一式100,000円
採蜜物品購入費	75,215 円	採蜜作業用品9,091円、蜂産品56,000円、シール・ラベル・梱包品10,124円
行事費	54,470 円	見学体験用品4,808円、松下産イベント・福祉祭等 49,662円
研修費	97,660 円	研修・研究費97,660円
事務経費	154,136 円	文通費127,500円、送料等8,360円、文具等 16,876円、保険1,400円
講師料	200000 円	年間指導料
繰越金	122329 円	売上金より

別紙3：関係者マップ

作成日： 1 月 31日



別紙3：関係者マップ(報告版)

作成日： 1 月 31日

